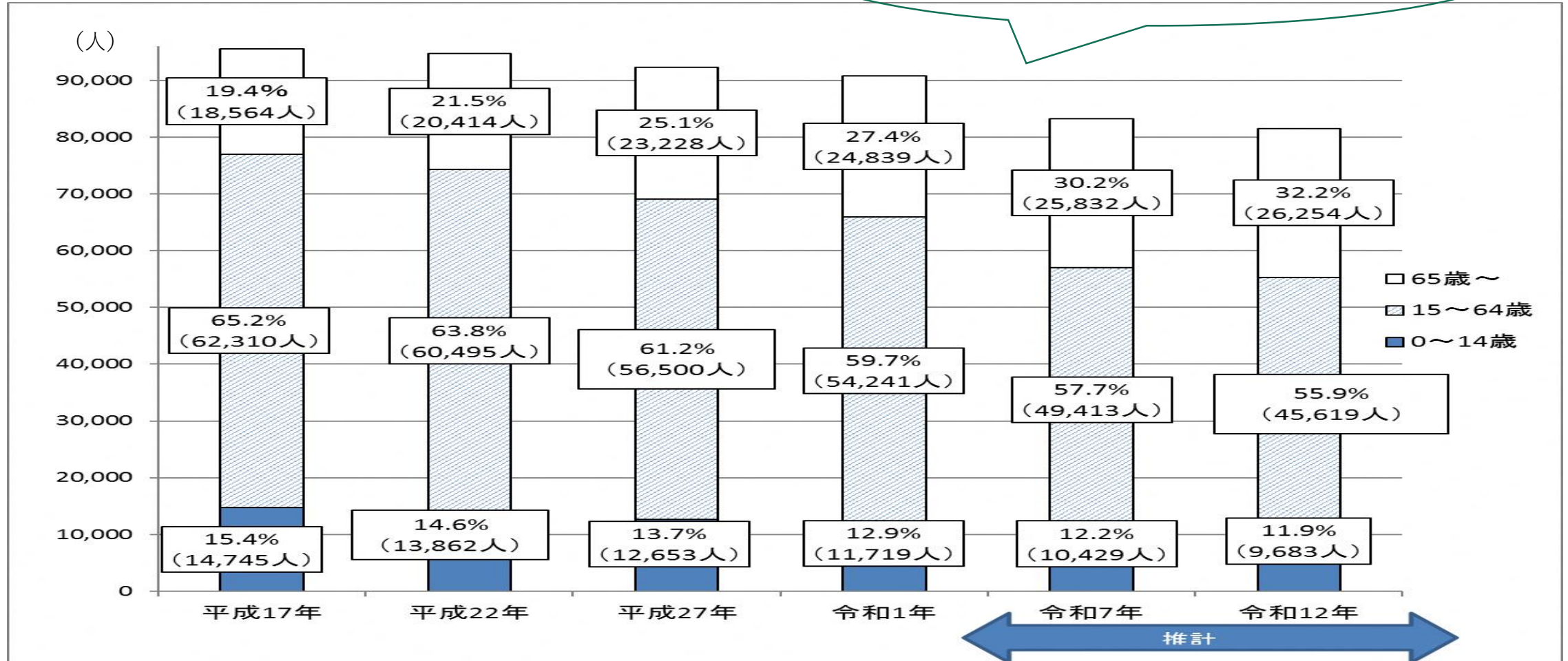


# 令和2年度 甲賀市 保健事業と介護予防の一体的実施

甲賀市役所 すこやか支援課 釜谷恵美子

# 甲賀市の人口の推移

人口は減少し、高齢者数は増加



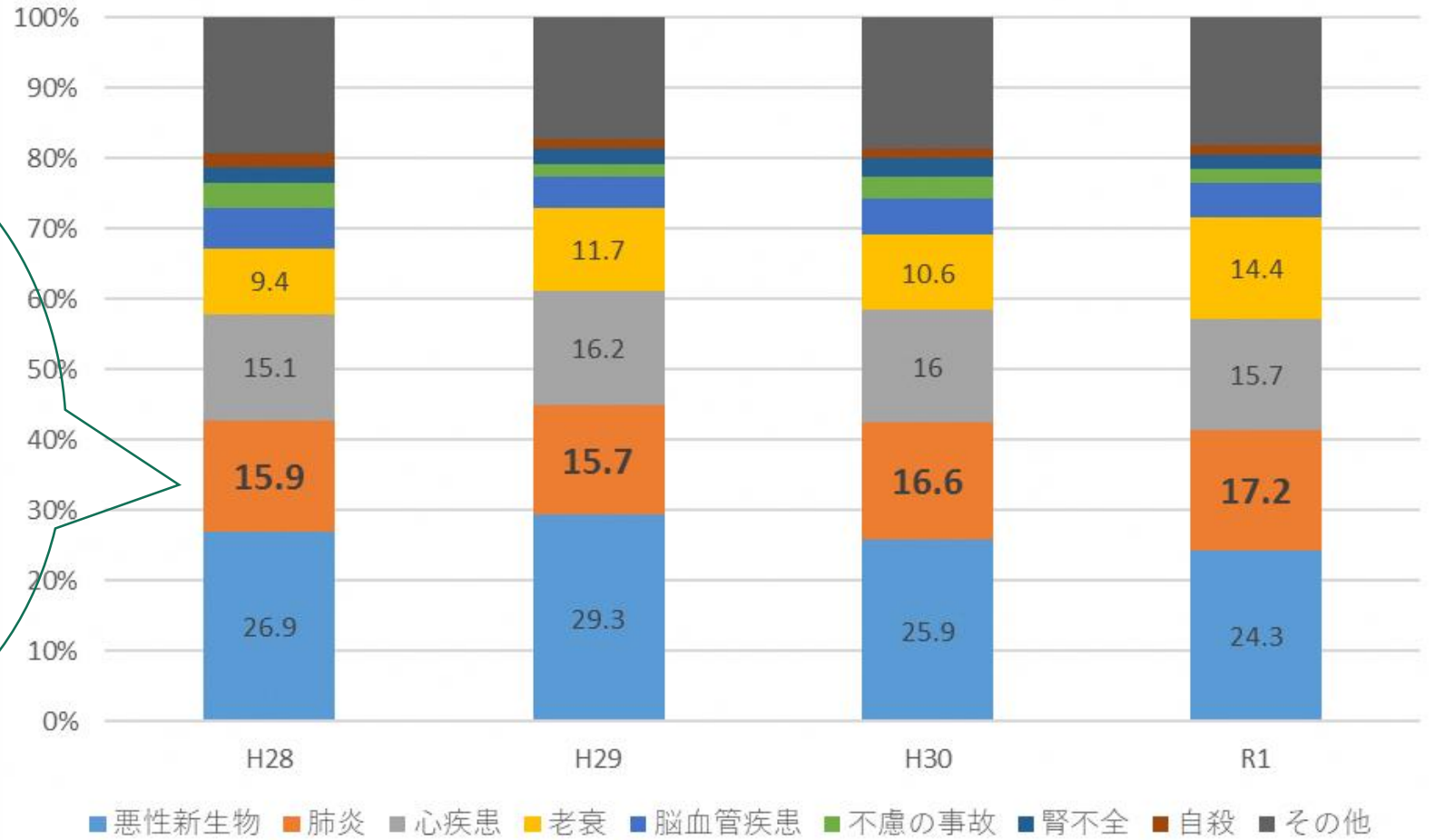
甲賀市保健衛生年報、第2次甲賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略～人口ビジョン～より

# 6地区（生活圏域）の状況

(単位：人、%)

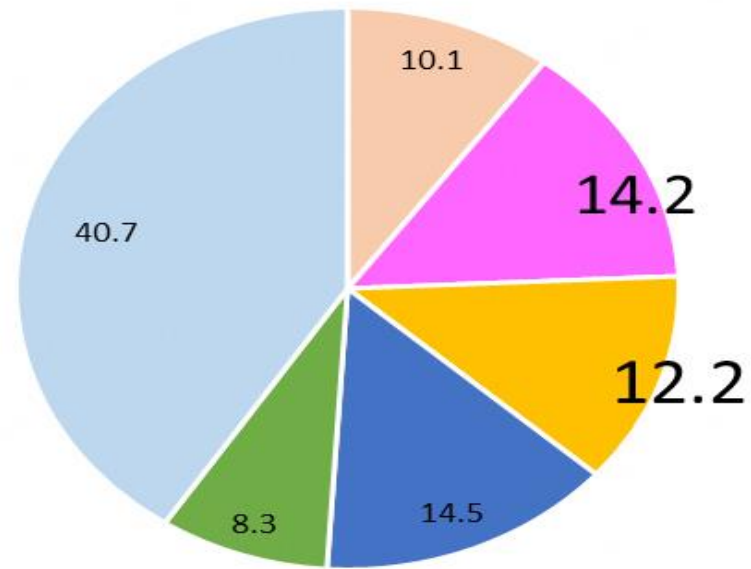
	H25年度末		H26年度末		H27年度末		H28年度末		H29年度末		H30年度末		R1年度末	
	高齢者数	高齢化率	高齢者数	高齢化率	高齢者数	高齢化率	高齢者数	高齢化率	高齢者数	高齢化率	高齢者数	高齢化率	高齢者数	高齢化率
<b>A地区</b> <b>B地区</b>	8,020	19.7	8,350	20.5	8,586	21.1	8,829	21.7	8,999	22.0	9,137	22.2	9,280	22.5
<b>C地区</b>	2,423	29.4	2,503	31.1	2,557	32.4	2,575	33.3	2,596	34.4	2,625	35.2	2,647	<b><u>36.1</u></b>
<b>D地区</b>	3,216	30.0	3,290	31.2	3,340	32.1	3,373	32.9	3,413	33.7	3,472	34.7	3,500	<b><u>35.5</u></b>
<b>E地区</b>	4,710	22.5	4,908	23.4	5,089	24.4	5,206	24.9	5,326	25.6	5,460	26.2	5,603	26.8
<b>F地区</b>	3,781	30.3	3,909	31.8	3,969	32.8	3,979	33.3	3,969	33.9	3,962	34.6	3,970	<b><u>35.5</u></b>

## 死亡原因データ



肺炎での  
死亡割合  
は、  
増加傾向

## 令和元年度介護認定申請時原因疾患 (新規申請) (%)

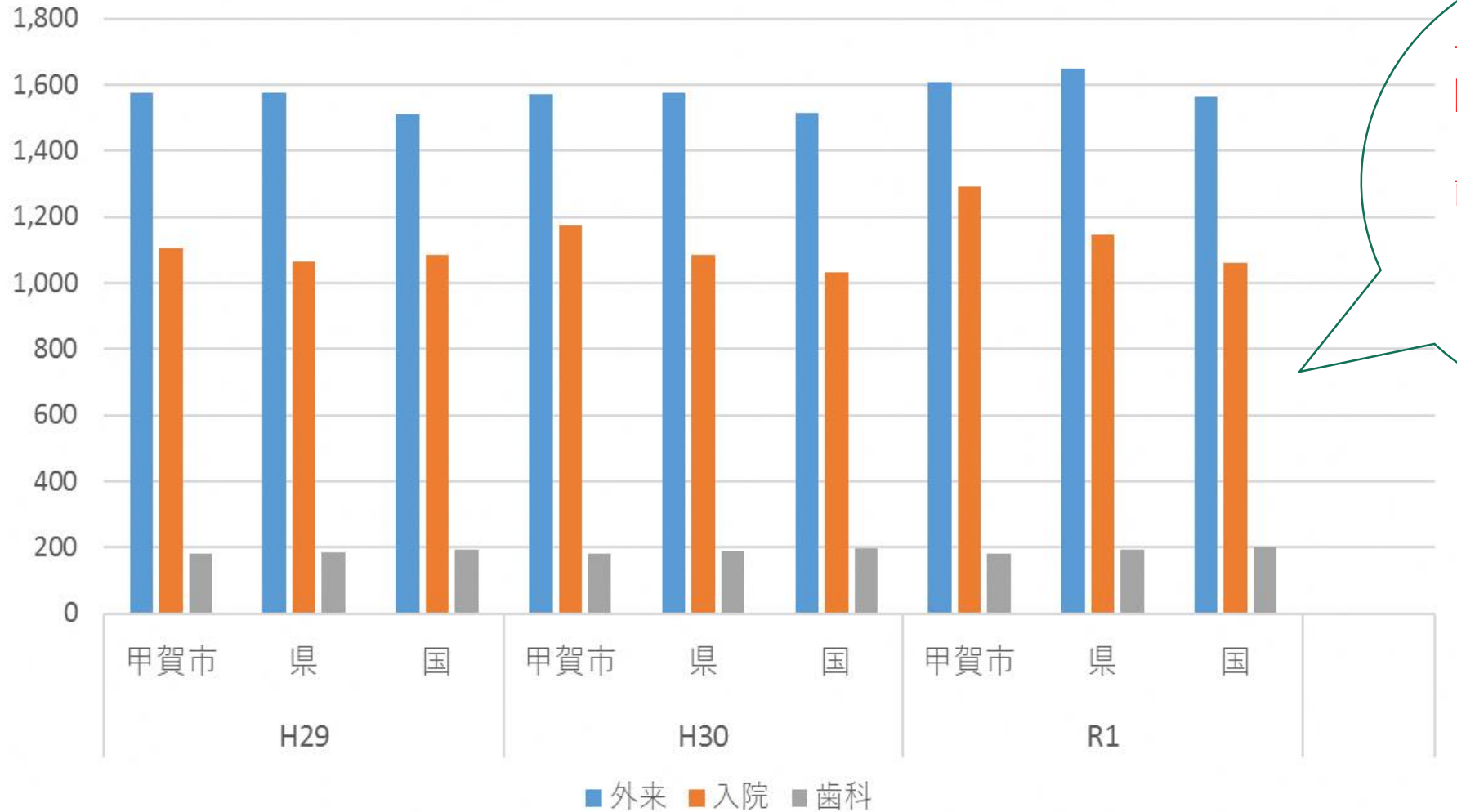


- 悪性新生物
- 骨・関節疾患
- 骨折・転倒
- 認知症
- 脳血管疾患
- その他

甲賀市長寿福祉課データより

### 甲賀市後期高齢者医療費

(1人当たりの点数)



一人当たりの入院医療費が、国、県と比べて高い。  
 歯科は、国、県よりやや低い。

## 甲賀市の保健事業と介護予防の一体的実施に向けて

甲賀市の主な死因を見てみると、毎年肺炎が上位に位置づけられ、死因別割合で見ると令和元年では、17.2%を占めており、口腔ケアが不十分で誤嚥性肺炎を繰り返すことが考えられる。滋賀県保険者協議会の平成29年度健診等データ分析結果報告書からは、「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週3回以上ある者の割合」が、甲賀市の75歳以上の男女共に割合が高く、就寝近くの食事摂取後の口腔清潔状況などが把握できていないが気になるところである。75歳以上の約55%は1年以内に歯科受診をしておらず、咀嚼力の低下は口腔機能全体の低下につながり、嚥下機能と連動して、全身のフレイルや要介護のリスクにつながりやすい。

また、高齢者は複数の慢性疾患を持っており、多剤服薬に陥りやすい。甲賀市は年齢が高いほど一人あたりの薬剤数が多く、80歳以上の40%以上が6剤以上、10%が10剤以上の多剤服薬者であった。同一成分重複は、胃薬と睡眠薬が多い。

多剤服薬と転倒の関係も「5種類以上で転倒の発生率が高かった」と、厚生労働省保険局高齢者医療課からの高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン別冊参考資料にも掲載されており、甲賀市の令和元年度の新規要介護認定申請時の主治医意見書の統計では、骨折・転倒が3位（12.2%）であった。

# 各生活圏域の現状

甲賀市第7期介護保険事業計画高齢者福祉計画 高齢者実態把握調査結果より

## <口腔機能について>

口腔機能低下者は、市平均24.4%である。**C地区が最も高く29.8%**、次いで、B地区 27.9%、F地区 25.8%、D地区 24.6%、A地区 24.4%、E地区 22.9%となっている。

## <転倒リスクについて>

転倒リスクの該当率は、市平均34.7%である。**D地区が最も高く39.5%**、次いで、F地区 38.1%、B地区 36.1%、E地区 35.1%、A地区 30.3%となっている。

## <市全体の割合を100とした場合>

**A地区**: 口腔機能低下 104.5%、運動機能低下 92.3%、転倒リスクあり 87.3%

**B地区**: 口腔機能低下 114.3%、運動機能低下 92.3%、転倒リスクあり 104.0%

**C地区**: 口腔機能低下 122.1%、運動機能低下 108.9%、転倒リスクあり 89.0%

**D地区**: 口腔機能低下 100.8%、運動機能低下 91.9%、転倒リスクあり 113.8%

**E地区**: 口腔機能低下 93.9%、運動機能低下 98.8%、転倒リスクあり 101.2%

**F地区**: 口腔機能低下 105.7%、運動機能低下 126.2%、転倒リスクあり 109.8%



# 保健事業と介護予防の一体的実施

## ●基本方針

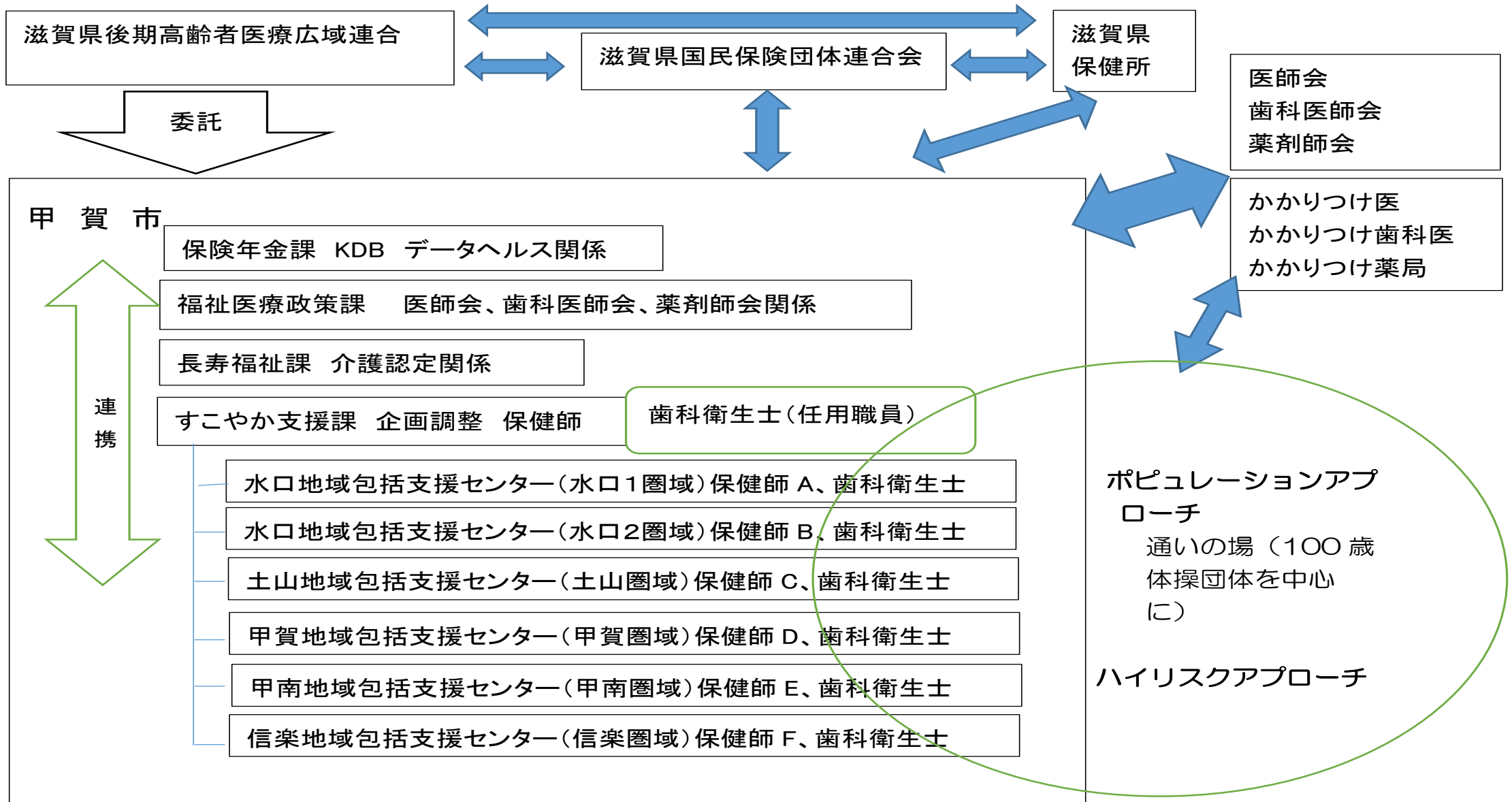
高齢者の健康の保持増進や健康寿命の延伸を図るため、後期高齢者医療・国民健康保険・介護予防・健康づくり等庁内担当部署および関係団体との連携のもと、地域の健康課題を分析し、保健事業と介護予防を一体的に実施するため、事業の企画・調整・評価等を行い、高齢者に対して適切な支援を行う。

## ●目的

超高齢社会において、高齢者が元気で生き生きとした生活を継続していくために、高齢者一人ひとりの医療、健診、介護情報を一体的に把握する事により、地域の健康課題の分析を実施する。

健康を害するリスクの高い高齢者を抽出し、保健指導や通いの場への参加勧奨を実施し、また、通いの場に出向いて健康教育、健康相談を実施し、フレイル状態にある高齢者の生活機能向上に向けた支援やフレイル状態に陥らないように予防をする。

【甲賀市 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施体制図】



# 各事業について

## 【ポピュレーションアプローチ】

**目的**：フレイル予防を中心に、口腔機能低下予防、ポリファーマシーに関して、健康教育や健康相談等を実施しながら健康寿命を伸ばし、住み慣れた地域で社会とのつながりを保ちつつ、自立した生活の質の向上をめざす。

**対象者**：いきいき100歳体操通所者（各生活圏域2団体）

**アプローチ**：1団体3回。通所者に、口腔機能低下予防の健康教育、健康相談、質問票を実施。口腔機能低下や多剤同剤服薬でのフレイル状態の高齢者は、ハイリスクアプローチや関係機関へつなぐ。

**評価**：健康教育、健康相談実施回数、参加者数、質問票での良好率（生活の中での変化の声）、フレイルリスクの高い高齢者をハイリスク連携や関係機関等に連携した人数、生活の中で良くなった住民の声

# 各事業について

## 【ハイリスクアプローチ】

### ①口腔機能低下予防

**目的**：不適切な口腔ケアが原因で発生する誤嚥性肺炎等の発生を予防し、必要時受診を促し、高齢者の健康保持増進につなげる。

**対象者**：KDBレセプトデータ（R2.4月時点）による3年間（H29、H30、R1のレセプト）に、3回以上の肺炎の診断がある人（がん、喘息、COPDを除く）で、介護認定を受けていない人。

13人（A地区4人、B地区4人、C地区1人、E地区2人、F地区2人）

**アプローチ**：歯科衛生士、地域包括支援センター保健師で訪問実施。

対象者1人に対し、2回訪問し、OHAT、日本歯科医師会チェックリスト、口腔ケア指導を実施。必要時は、歯科医につなげる。

（保健師は、対象者の健康等をKDBから読み取り、歯科衛生士と連携）

**評価**：OHATの変化、チェック表の変化、質問票の変化、生活の変化、必要時の受診  
R2年度の肺炎の有無、健康状態の変化

# 各事業について

## 【ハイリスクアプローチ】

### ②薬剤多剤服薬管理

**目的**：多剤同剤の服薬管理に問題がある在宅高齢者に対し、ポリファーマシーを回避し、適切な薬物療法が行われるように支援し、高齢者の健康保持増進につなげていく。

**対象者**：レセプトデータ（H31年1月～3月までの請求月）で、

- ① 3か所以上の医療機関から医薬品を処方された方
- ② 同月中に2か所以上の医療機関から同成分を含む医薬品を処方された方
- ③ ①・②重複者

30人（A地区5人、B地区1人、C地区8人、D地区4人、E地区7人、F地区5人）

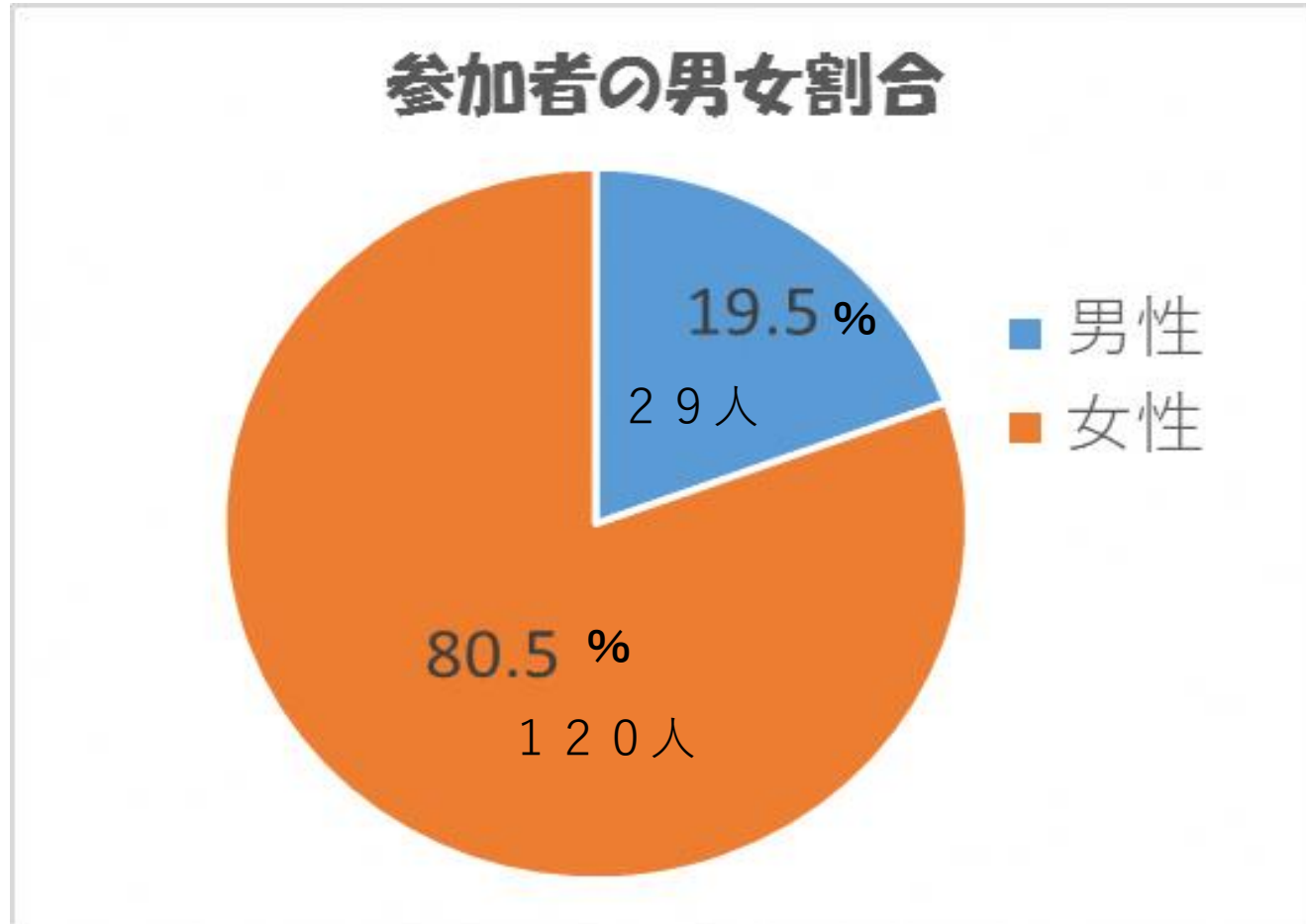
**アプローチ**：薬剤師、地域包括支援センター保健師で訪問実施。

対象者1人に2回訪問し、生活状況を見ながら適切な服薬指導などを実施し、必要時は主治医と連携する。

（保健師は、対象者の健康等をKDBから読み取り、必要時、主治医と連携）

**評価**：服薬状況の変化、質問票の変化、生活の変化、健康状態の変化、老年症候群などの有無  
お薬手帳の一本化ができたか、かかりつけ薬局をもてたか、おくすり手帳を持って主治医に相談できたか。

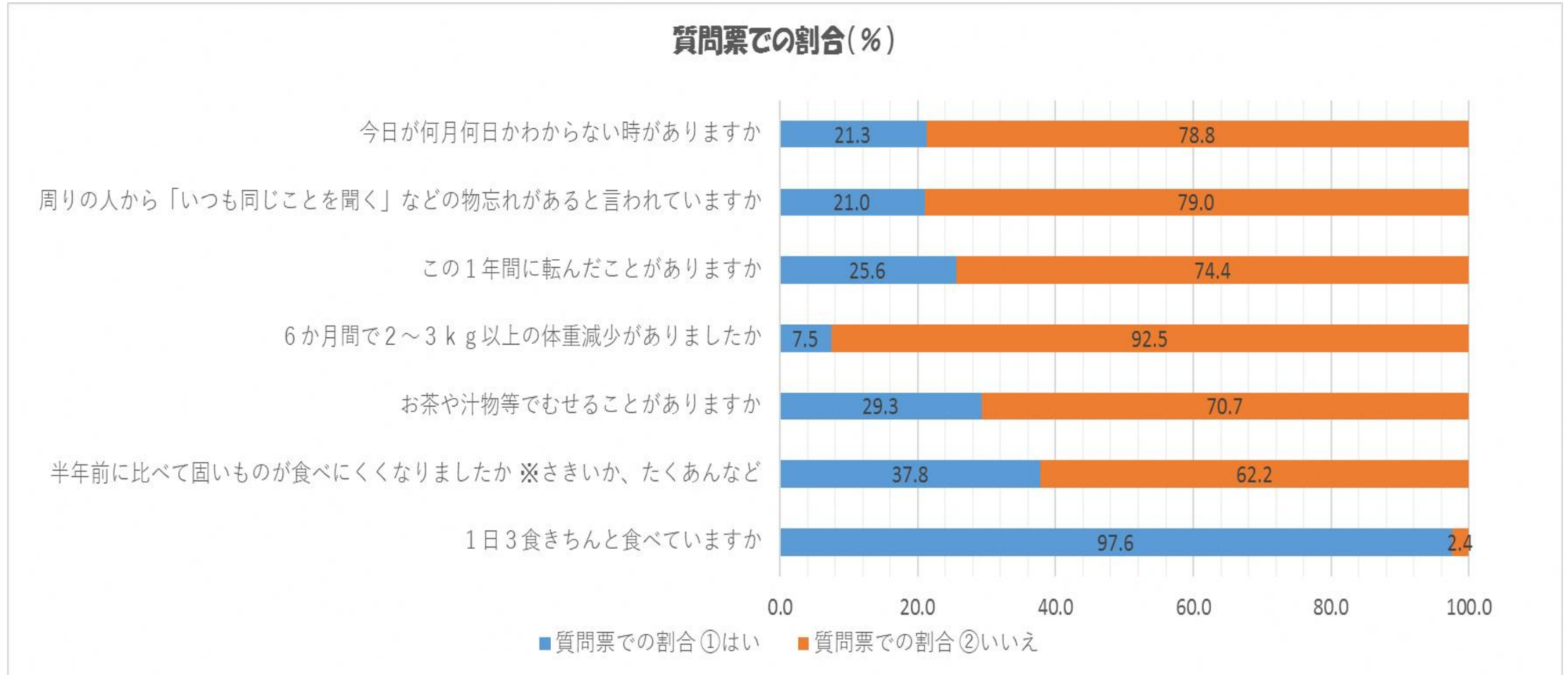
# ポピュレーションアプローチ（中間報告）



とても勉強になった。  
自宅で頑張る！



# ポピュレーションアプローチ（中間報告）



# ポピュレーションアプローチ（中間報告）

## オーラルフレイルのセルフチェック表

出典：東京大学高齢社会総合研究機構より

ぜひ他の地域でもやったら？



自分の口の健康状態を知って、  
オーラルフレイル対策を

4点以上で危険性が高い!!



オーラルフレイルのセルフチェック表

質問事項	はい	いいえ
<input type="checkbox"/> 半年前と比べて、堅い物が食べにくくなった	2	
<input type="checkbox"/> お茶や汁物でむせることがある	2	
<input type="checkbox"/> 義歯を入れている*	2	
<input type="checkbox"/> 口の乾きが気になる	1	
<input type="checkbox"/> 半年前と比べて、外出が少なくなった	1	
<input type="checkbox"/> さきイカ・たくあんくらいの堅さの食べ物を噛むことができる		1
<input type="checkbox"/> 1日に2回以上、歯を磨く		1
<input type="checkbox"/> 1年に1回以上、歯医者に行く		1

\*歯を失ってしまった場合は義歯等を適切に使って堅いものをしっかり食べることができるよう治療することが大切です。

合計の点数が

0～2点	オーラルフレイルの危険性は低い
3点	オーラルフレイルの危険性あり
4点以上	オーラルフレイルの危険性が高い

出典：東京大学高齢社会総合研究機構 田中友規、飯島勝矢

かかりつけ歯科医に定期的に通い、  
ずっと笑顔で“健康長寿”を目指しましょう!

いつまでも元気で、  
おいしく食べられるように…



発行：2018年12月

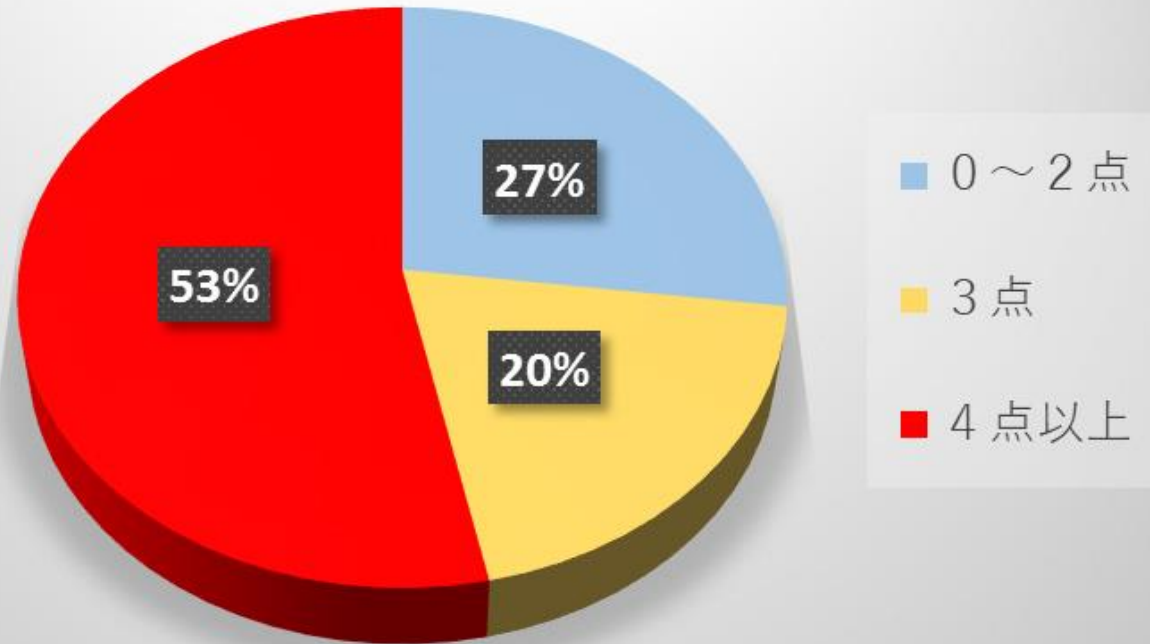


# ポピュレーションアプローチ（中間報告）

歯磨きやお口の体操  
を楽しんでやってい  
きたい！



## オーラルフレイルのセルフチェック表点数割合



## ポピュレーションアプローチ

口腔機能低下予防やお薬のことについて、関心を持ってもらえ、生活の中で実施できる目標を持ち、継続してもらえた。

- ・評価表やオーラルフレイルのチェック表を用いて、点数化することにより評価しやすい。
- ・3回目の評価を基に、具体的な内容について支援していくことが必要。

### ハイリスクアプローチ 口腔機能低下予防

- ・口腔状況を丁寧にチェックし、生活状況を見ながらアプローチをすると、口腔機能は良くなった方あり。
- ・義歯などの問題が把握でき、受診勧奨ができた。
- ・今後も、口腔に関心を持ってもらえるような活動が必要であり、継続できるような支援が必要。

### ハイリスクアプローチ 多剤同剤服薬指導

- ・お薬手帳を1冊にしている方、かかりつけ薬剤師と相談している方も多かった（R3.2.10現在43%）
- ・今後は、相談や訪問活動の中で把握した課題がある方（薬をため込んでいる方、何の疾患で内服しているかを知らない方など）への支援が必要。

## 事業全体

- ・庁内で、縦割りではなく各課連携をとることにより甲賀市の課題を共有できた。
- ・コロナ禍であったが、後半は感染予防を徹底しながら地域での活動が開催され、口腔や服薬などのエッセンスを取り入れた活動ができた。
- ・通いの場に出てこない閉じこもり高齢者への支援をどのようにするか検討が必要である。
- ・高齢者へのアプローチだけではなく、高齢者の分析結果を基に、若いうちからの健康づくりを考えていく必要がある。
- ・今後は、口腔機能や服薬管理だけでなく、転倒予防や認知症予防を含め、食生活や運動を加味し、また、健診未受診の方（健康状態不明者）や健診受診後の受診必要であるが未受診の方へのアプローチなども検討し、医療費の安定化、そして、健康寿命の延伸に向けて、どのように取り組むべきか検討が必要である。

ご清聴ありがとうございました